

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成30年 5月 30日

都道府県知事
佐竹敬久

殿

提出者

住 所 横手市平和町10-30

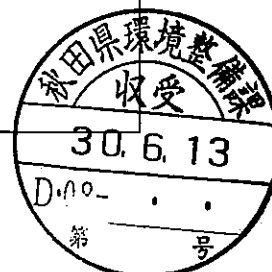
氏 名 株式会社大和組

代表取締役 大和 康範

電話番号 0182-32-3434

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

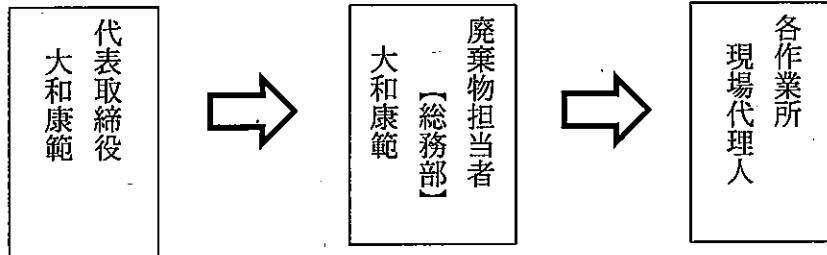
事業場の名称	株式会社大和組
事業場の所在地	横手市平和町10-30
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	総合建設業
② 事業の規模	平成29年度完成工事高 1,200,000千円
③ 従業員数	23名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	アスファルト塊→再資源化施設へ処理委託 コンクリート塊→再資源化施設へ処理委託 木くず→再資源化施設へ処理委託 金属くず→再資源化施設へ処理委託 その他廃棄物→適応する処分場への処理委託



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 29 年度）実績】		※別添の通り
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・現場での分別解体の実施 ・再資源化施設への運搬 ・マニフェスト等による再資源化施設への処分実行の管理		
② 計画	【目標】		※別添の通り
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） ・現状の管理体制の維持実行 ・環境関連法令の社内周知徹底		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現場での分別解体の実施 ・再資源化施設への処理委託
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・発生するアスファルト塊、コンクリート塊の100%再資源化

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

	②計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類		
		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
		(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量		t	t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量		t	t
	(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
① 現状	【前年度（ 年度）実績】 ※別添の通り			
	産業廃棄物の種類			
	全 処 理 委 託 量		t	t

		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
		(これまでに実施した取組) ・現場での分別解体の実施 ・再資源化施設への運搬 ・マニフェスト等による再資源化施設への処分実行の管理		

(第5面)

② 計画	【目標】 ※別添の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t

		(今後実施する予定の取組) ・工事施工中の発生数量の把握 ・個々の処分施設との委託契約 ・現場での分別解体の実施 ・処理施設へ運搬 ・マニフェスト等による再資源化施設への処分実行の管理
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

と。

- (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

単位：t

産業廃棄物の種類 名称	委託処理量のうち委託先毎の量											
	排出量			委託先での処理状況 全処理委託量			優良認定処理業者への 処理委託量			再生利用業者 への処理委託量		
	H29年度 現状	H30年度 計画	H29年度 現状	H30年度 計画	H29年度 現状	H30年度 計画	H29年度 現状	H30年度 計画	H29年度 現状	H30年度 計画	H29年度 現状	H30年度 計画
コンクリートガラ	807.21	500	807.21	500	95.4	100	637.95	500	-	-	-	-
アスファルトガラ	792.05	500	792.05	500	-	100	792.05	500	-	-	-	-
その他がれき類	22.15	15	22.15	15	-	-	-	1	-	-	-	-
ガラス・陶磁器くず	17.06	15	17.06	15	-	-	-	-	-	-	-	-
廃プラスチック	17.38	20	17.38	20	-	-	-	-	-	-	-	-
金属くず	7.59	10	7.59	10	-	-	7.59	10	-	-	-	-
安定型建設系混合廃棄物	2.47	2	2.47	2	-	-	-	-	-	-	-	-
建設汚泥	2	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
紙くず	15.19	10	15.19	10	-	-	-	-	-	-	-	-
木くず	82.28	60	82.28	60	-	-	-	-	-	-	-	-
繊維くず	2.56	2	2.56	2	-	-	-	-	-	-	-	-
廃石膏ボード	13.93	15	13.93	15	-	-	-	-	-	-	-	-
管理型建設系混合廃棄物	13.94	10	13.94	10	-	-	-	-	-	-	-	-
石綿含有産業廃棄物	1.45	0	1.45	0	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1797.26	1160	1797.26	1160	95.4	200	1437.59	1011	0	0	0	0

